



OSTCとは別に、年齢も職業も異なるバイク好きの仲間たちとツーリングを楽しむこともある。写真は一昨年の秋に行った奥秩父



川口オートレース場で開催されたイベントで、オーバルコースをアグレッシブに駆け、観客を沸かせる



取材に訪れていた女子アナウンサーと。年齢や男女の差を問わずに魅力を共有できるのがバイクの良さだ



荒川河川敷で行われているイベントにも顔を出しては話に花を咲かせる



ダート走行も好きな菱木さんは、オフロードバイクも所有する



残念ながら昨年生産中止となったモンキーの「BAJA」。近所の移動などで今も活躍中だ



60年代の名車CL72で秩父の峠道を快走する菱木氏。今もカーブ走行が大好きだ

青森県西津軽の「不老不死温泉」で。ふだんは関東近郊だが、年に数回は長距離も走る



## Back to motorcycle life. マイク菱木の バイクライフ vol.6



### Scene 6 オーバー60ツーリングクラブ

富士山をバックに。ひとり気ままにツーリングをするのは、至福のひとつ

## 退職後にはじめて知った “趣味として”楽しむバイク

ぼくにとってバイクは日常のものでした。当たり前のように、楽しくてやめられない。その喜びが原点となって、ホンダとともに歩む人生の方向性が決まった。ホンダには、人まねをしないというパイオニアスピリットがある。その精神を体現するのは、ユーザーたち。今、全国のユーザーに開かれた「ホンダドリーム店」があるけれど、各店舗が個性をもってやっていて素晴らしい。もっとマニアックといわれるくらいいいと思うよ(笑)。



1968年の全日本選手権で優勝を飾った22歳の菱木氏(左端)

〈最終回に寄せて〉  
バイク、そして  
ホンダとともに歩む

### 2017年登場のCB1100RSに モノトーン調のカラーリングを追加



空冷直列4気筒エンジンを搭載し、「CB」の伝統を受け継ぐスポーツモデルCB1100RSは、17インチホイールを採用し、軽快でスポーティーな乗り味が特徴。さらに、その魅力を高める「ヘビーグレーメタリック-II」のモノトーン調カラーリングが新たに登場した。バイクを復活させたいミドルエイジにうってつけのモデルだ。

CB1100RS 価格1,378,080円(税込)

OSTCの定例ツーリング以外にもフラリとひとり、ツーリングに出かける。また、各所で行われるバイクイベントにも顔を出す。バイクのある生活は10代のことと変わらない。バイクとの関わりが元気の源だ。バイク、そしてホンダと共に歩んできた菱木氏は、これから先も走り続ける。

3連覇を果たし、アメリカ時代にはテストコーディネーターとして1日に数千キロを走った経験が、人並みはずれた体力をつくり上げたのかもしれない。なにより、バイクが好きだという気持ち、つらいと感じさせない大きな要因になっているのだろう。

ホンダが世界に誇る名車CB750FOURなどの開発に携わった伝説のライダー菱木哲哉氏の足跡をたどるこの連載も今号が最終回。菱木氏にとって最後の職場となったHMJ(ホンダモーターサイクルジャパン)を退職後、イベントなどで60年代、70年代のレーシングマシンのテストライダーを担当したり、バイク雑誌主催のイベントではゲストとしてトークショーをしたりするなど、相変わらず仕事としてバイクに関わってきた菱木氏だが、同時に趣味として、バイクと接する生活もはじまった。

現在もCB1100をはじめ数台のバイクを所有するが、自分でメンテナンスし、ツーリングに出かけるなど、70歳を過ぎてもアクティブに行動している。

「ホンダOBでつくる60歳からのツーリングクラブ(Over Sixty Touring Club OSTC)があるんです。このクラブの年に2回のツーリングに

は、できる限り参加しています」

OSTCでは皆で一緒に走る、いわゆるマストツーリングのスタイルはとっていない。全国各地から集まるから当然なのだが、現地集合現地解散である。ホテルでの宴席で近況を報告したり、昔話に花を咲かせて親睦を深めたりするのが目的だ。だからバイクでこなければいけない決まりはない。

だが菱木さんは必ずバイクで出かける。場合によっては前日に出発し、あちこち寄り道しながらツーリングを楽しむ。

「サンデー毎日で暇ですから」と菱木氏は事もなげだが、雨に降られれば体力的にもかなりつらいはずだし、長距離を走るのもバイクに乗る身としてはきついことだ。ましてや70才を過ぎた体には負担が大い。それでもバイクで走っていることが楽しいし充実した時間だといふ。

かつて鈴鹿10時間耐久レースで



菱木 哲哉  
ひしき・てつや●1946(昭和21)年、千葉県生まれ。草創期の鈴鹿耐久レースに出場し、68年にCB450、69・70年にCB750で3連勝を飾る一方、テストドライバーとしてこれらのバイクの開発にも携わった。その後、単身アメリカに渡り「マイク菱木」として活躍。退職後は仲間とともにツーリングを中心にバイクライフを楽しむ。